



室小だより

茅ヶ崎市立室田小学校
令和3年 6月号
校長 下反達二

学校教育目標「豊かな心を持ち、主体的・創造的に行動する子の育成」

「共感する力」

少しずつ雨の日が多くなってまいりました。もうすぐ梅雨入りでしょうか。しとしと降る雨は木の葉を濡らし、土や木の渴きをいやしています。

毎日、時間があるときに、子どもたちの様子を見に教室に行きます。どのクラスも子どもたちと先生方が真剣に授業をされているので、せっかくの雰囲気をおこさないように心を掛けながら、でも面白そうなので、ついつい見入ったりしながら、まわっております。

あるクラスのこんな掲示が目にとまりました。『「まちがっても大丈夫だよ」という感じできく』なんとやさしい言葉なのでしょう。室田小では「あたたかい聴き方、やさしい話し方」を実践するために、丁寧に時間をかけて、具体的にどうするかを子どもたち同士が話し合っています。きっとその話し合いの中から紡ぎだされた子どもの言葉なのでしょうね。友達のことをまっすぐ気づかうその子の誠実さがにじみ出ていて、これが貼ってあるだけで、なんだか安心して思っていることを言えるような気がしてきます。どの教室にもそんなあたたかい言葉が授業の中で紡ぎだされ、その都度、先生方や子どもたちによって価値づけられています。

子どもたちが安心して失敗できる環境を学びや生活の場を用意することは、とても大切なことです。安心して失敗できる場があるからこそ、新しいことに挑戦してみようとする気持ちがつくれるのだと思います。「あたたかい聴き方、やさしい話し方」はその環境をつくるための土台作りに欠かせない合言葉であるような気がします。失敗は何度したってかまいません。その代わりに、やり直して成長するチャンスがたくさん増えるということなのです。

さて、先に挙げた『「まちがっても大丈夫だよ」という感じできく』こういった言葉を紡ぎだす心もちは「共感する力」につながります。これは、相手の自分とは違う気持ちや考えをくみ取り、相手の立場になって考えようとする力です。こうした力を身に付けていくと、世の中には自分とは違う考えがたくさんあることに気づくことができ、人としてより豊かになれるのではないのでしょうか。昨今のテレビのニュースやネット等を見ると、お互いを警戒し、けん制し合い、隙あればつけ込み、出し抜こうとするような不寛容さが目に付くことがあります。これらを打開するキーワードはこの「共感する力」かもしれませんね。



◆新型コロナウイルス感染防止対策 ～ご協力に感謝いたします～

9都道府県の「緊急事態宣言」の延長が決まりました。茅ヶ崎市の「まん延防止等重点措置」も同様に6月20日まで延長されました。学校は、文部科学省からの「学校における感染対策をより一層徹底した上で、学校運営を継続していく必要がある」といったことを基に、教育委員会からの指示や助言を踏まえて教育活動を行っています。手洗いやマスク、換気、黙食などの基本的な対策を、子どもたちもよくやってくれています。こうした中でも、何とか子どもたちが輝く学習活動を展開しようと、全教職員で悩みながら授業づくりをしています。保護者の皆様におかれましても、どうぞ、引き続きのご協力をお願いいたします。